

# 今、超克のとき。いざ、足利。 山姥切国広展



山姥切国広 錠(きっさき)

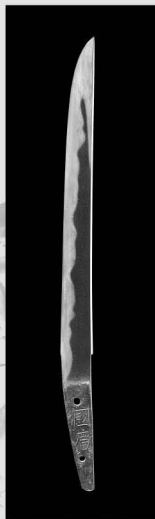
「山姥切国広」は、刀工・堀川国広による名刀です。天正18年(1590)、足利の領主・長尾顕長の依頼で作刀したもので、その覇気のある作風と凛としたたたずまいは見るものを魅了し、国広の代表作とされています。

このたび、427年の時を超え、初めて足利の地で「山姥切国広」を公開いたします。あわせて、足利学校で同年に打ったとされる、国広の脇指「布袋国広」も公開いたします。

国広の一生は謎に満ちており、「山伏の名を借りて諸国を行脚したスパイである」「京都で人を殺め、その冥福を祈るために足利学校に来た」など、数々の逸話が残されていますが、これらの真偽は定かではありません。しかし、国広は長尾顕長のために「山姥切国広」を打ったこと、同年に足利学校で「布袋国広」を打った事実は明らかです。

本展は、名刀を紹介するとともに、長尾顕長や当時の足利学校席主(校長)・閑室元信に関する史料、戦国期の足利を写した「長尾但馬守居城之図」(初公開)などを通して、九州出身の国広が足利の地へ向かうこととなったきっかけを検証しようと試みるものです。また、二つの国広の刀に加え、国広作の短刀が特別展示されることになりました。形状や銘から「布袋国広」との共通点が見てとれます。この機会にぜひご覧ください。

\*背景：長尾但馬守居城之図(部分)



◎初公開  
短刀 銘「國廣」  
堀川国広作  
制作年不詳

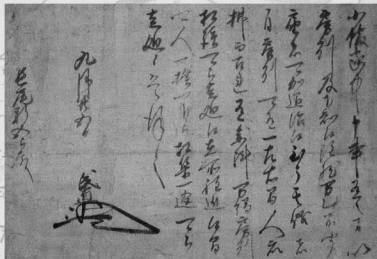


重要美術品  
脇指 銘「日住信濃守國廣作」  
号 布袋国広  
堀川国広作 天正18年(1590)  
(公財)足利市民文化財団蔵  
\*指裏に「於野州足利学校打之」との銘がある。

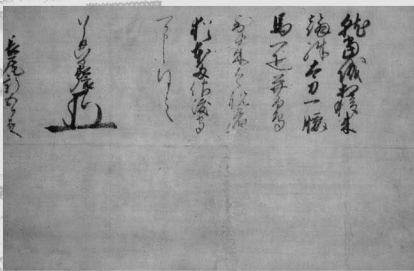
足利市指定文化財  
紺糸織 鐵兜具足  
室町時代 長林寺蔵  
\*大祥山長林寺に伝来する長尾氏ゆかりの具足で、長尾氏の家紋である三ツ巴九曜紋があらわれている。



閑室元信像(複製)  
絹本着色  
閑室元信賛 慶長17年(1612)  
(公財)足利市民文化財団蔵  
\*閑室元信は足利学校の九世席主(校長)を務めた人物で、九州肥前国(現在の佐賀県)の出身。



北条氏直書状 長尾顕長宛(長尾文書)  
天正17年(1589) 長林寺蔵



徳川家康書状 長尾顕長宛(長尾文書)  
天正18年(1590) 長林寺蔵



長尾山図(部分) 長林寺蔵  
\*足利長尾氏は室町時代末期の初代・景人以来、六代・顕長まで足利を治めた。

## ◆ 関連行事 ◆

### [ 特別講演会 ]

#### ① 「堀川国広について」

講師：小笠原信夫氏(東京国立博物館名誉館員)  
日時：平成29年3月12日[日] 午後2時～  
会場：足利商工会議所友愛会館 4階わたらせホール  
定員：200名

#### ② 「足利長尾氏と両毛地域の戦国」

講師：築瀬大輔氏(群馬県立歴史博物館学芸係長)  
日時：平成29年3月19日[日] 午後2時～  
会場：まちなか遊学館 2階大会議室  
定員：150名

\*お申し込みは①②ともに、2月20日[月]まで(当日消印有効)に往復はがきに参加を希望する講演会名、講演会日、申込者の住所、氏名、連絡先および、返信用住所、氏名を明記の上、足利市立美術館へお送りください。お申し込み1通につき1名の参加となります。なお、応募者多数の場合は抽選となります。

往復はがき送付先 足利市立美術館  
〒326-0814 栃木県足利市通2丁目14-7 Tel.0284-43-3131

展覧会および特別講演会の詳細に関するお問い合わせ

足利市教育委員会文化課  
〒326-8601 栃木県足利市本城3丁目2145 Tel.0284-20-2229

## 足利市立美術館 Ashikaga Museum of Art

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目14-7  
Tel.0284-43-3131  
<http://www.watv.ne.jp/~ashi-bi>

### [ 交通案内 ]

電車：JR両毛線足利駅・東武伊勢崎線足利駅下車、徒歩10分  
バス：足利市生活路線バス「美術館前」下車  
車：北関東自動車道「足利IC」より15分・「太田・桐生IC」より20分  
東北自動車道「佐野・藤岡IC」より40分

◎お車で越しの方は下記駐車場が無料でご利用いただけます。  
美術館前広場駐車場、美術館通り駐車場(徒歩1分)、美術館駐車場(徒歩2分)、通2丁目駐車場(徒歩3分/駐車券提示により6時間無料)、たかうじ君広場駐車場(徒歩3分)、足利学校東駐車場(徒歩7分)

